

事業計画書

事業名	若葉区の財産“縄文と豊かな自然をもっと知ろう”運動の推進
目的	<p>一昨年、特別史跡に昇格した「加曾利貝塚博物館」に対し、その活動を50年にわたって積極的に支援してきた「NPO加曾利貝塚博物館友の会」の今後の特別史跡に対応するふさわしい体質改善・活性化を行い、若葉区の持てる“縄文”“豊かな自然”に目を向けた開発を行い、地域振興・博物館の発展に大いに寄与することを目的とするものである。</p>
取組内容の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・特別史跡昇格前、友の会自体の高齢化進行と50名程度まで落ち込んだ会員数により、大きな活動は出来なかった。特別史跡昇格問題を契機に、NPO法人化を図り、新たに地域を巻き込み広報活動を活性化推進することにより、現在会員160名迄確保するに至った。 ・しかしながら、友の会執行体制の高齢化はどんどん進行しており、今後の新しい展開については新陳代謝が強く望まれている。 ・一方、昨年11月末に開催された友の会主催の勉強会“貝塚サロン”は雨にもかかわらず40名の熱心な受講者があった。講師の興味ある話の効果はあったにせよ出席者の内半数の比較的若い年代の熱心な方々（女性が多い）がおられたことは大きな驚きであった。そこで、若葉区の持てる財産をもっと広く知ってもらうためにこの若い力である“縄文女子”“縄文男子”を本事業に参加願ひ、その出番を多く作ることが必要と考えた。それにより年代を問わず持っている“郷土愛”を、WGの話し合い、交流を通じ更に築き上げていくことが出来ればと考えている。 <p>即ち、友の会内部に新しくワーキンググループ（WG）を結成し現執行体制と共に、皆で今回の新規事業開発を行うものである。</p>
取組内容	<p>取り組みー1 加曾利縄文人に愛された“イボキサゴ”を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イボキサゴってなに？ ー各種講演会の開催ー 2) イボキサゴはどのように取るの？ ーイボキサゴ採取会の開催ー 3) イボキサゴはどのように食べるの？ ー試食会の開催（土器づくり同好会と共催）ー <p>取り組みー2 加曾利貝塚と周辺の大きな自然に触れよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 加曾利貝塚を起点とする若葉区ウォーキングコースの設計とパンフの作成 <ol style="list-style-type: none"> ① 加曾利貝塚ー市営霊園ー荒屋敷貝塚 ② 加曾利貝塚ー花輪貝塚ー都川ー水の里公園 ③ 加曾利貝塚ー坂月川ー月の木貝塚ー緑化植物園

	<p>④ 加曾利貝塚—坂月川—都川—平和公園 ⑤ 加曾利貝塚—二十五里貝塚—動物公園</p> <p>若葉区にある国指定の貝塚遺跡群(千葉市内5指定の内4指定が若葉区にある)、緑一杯の多くの公園並びに動物園の紹介を盛り込む。 2) 博物館イベントに並行して上記コースのウォーキング大会を開催する。加えて途中において自然観察会、遺跡説明会も行う。</p>
WGの仕組み	<p>○体制づくり：4月中に体制を明確にする。 友の会内部にWG方式による「友の会活性化委員会」を結成し、総括のもとに2つのWG(それぞれに代表者を置く)を作り、展開する。</p> <p>○構成人員： 主体は広く会員に呼びかけ、多くの会員からの参加を要請する。加えて、広く一般の方々にも種々の広報活動を通じて呼びかけ自由に参加していただく。(二つのWG参加もOK)</p> <p>○進め方： 先ずそれぞれのWGごとに、すべての友の会理事を割り振り担当を決め、先に述べた内容に関し、詳細な内容スケジュール等を決める。以降、年3回(7月、11月、3月)の全体集会で①内容・結果②これからの進め方③期待される事項、の紹介(ワークショップ)を行い詰めていく。結果に関して博物館と打合せの上、理事会に諮り即実施に移すことも考慮する。この過程で新人の友の会参加を要請する。</p>
実施スケジュール	<p>《1年目の取り組み》 取り組み—1</p> <p>1) イボキサゴに関する講演会開催： ○イボキサゴの生態：講師は例えば佐藤武宏氏(神奈川県立生命の星・博物館)—5月開催 ○房総の貝、縄文時代初期の貝類利用等、千葉中央博物館、黒住耐二氏(貝類学)—7月開催 ○イボキサゴの調理と味を考える：淑徳大学石井克枝氏(看護栄養学部)—9月開催 注)イボキサゴはタウリンの量が多い機能性の高い貝であり、食材、スープとしても注目に値する。</p> <p>2) イボキサゴ採取会の開催：6月開催 ○例年行っている現地集合に加えて、バス利用の場合も検討する。但し今年度は総枠として現地集合40名、バス利用40名とし(無料)、計80名を上限とする(乱獲を防ぐために)。 ○海岸入口までどこまで近づくことが出来るか輸送することを早急に検討する。</p> <p>3) イボキサゴの試食会—11月縄文まつり開催時 ○イボキサゴを試食してもらい、その後WGワークショップを開催し、味の吟味とどのような料理方法、また工芸品としての素材等皆で議論する。</p>

	<p>取り組みー2</p> <p>1) 5つのコースに関し、試行を行い、下記内容を含め詳細設計を行う。大略スケジュールとしては31年以内に調査を終了する。 行程、距離数、所要時間、危険箇所、トイレの存在、途中の自然環境、遺跡群の存在と内容紹介、野草群落の紹介、バス・モノレールストップ・駅の場所と時間の調査 等</p> <p>2) パンプの作成の検討を行う。</p> <p>3) “歩こう会”を開催についての内容を検討する。 参加人数の制約を設けるのか、博物館行事とどの様にリンクさせて行うのか、単独で行うのか、5コースの採用方法、他団体（貝塚自然観察会、坂月川愛好会）の力を借りる等についても検討する必要がある。加えて、歩こう会開催にあたり、ハンドマイクを入手して内容が良く伝達されるように心がけたい、</p>
実施場所・地域	<p>○イボキサゴの採取会を除き、WG会議或は活動の場は加曾利貝塚と若葉区内内で行うことになる。又、WGメンバーは広く公募するが加えて、加曾利貝塚周辺の桜木・加曾利・小倉町・若松の各町内に重点的に呼び掛ける。</p>
参加対象者数	<p>○まず本事業を推進するWGメンバーであるが、旗振りを加え友の会理事から8名以上、会員、一般から夫々30名を確保したい。その他、市の関係機関ヘルスマイトの応援をいただき全体としては50名程度を考える。</p> <p>○取り組みごとの参加者は、取組ー1で、講演会出席者300名、採取会100名、料理関連400名計800名程度を予想する。取り組みー2では1回の催行で50名、年4回行うとすれば200名となる。合計約1000名の参加を目論む。</p> <p>○取り組みー2のウォーキングマップについては広く利用していただくので、縄文まつり以外にも広く活用していただくことになる。これについてはカウントしていない。</p>
実施にあたって地域や団体との連携	<p>○すべての面で行政の加曾利貝塚関係者との協働作業となるので関係機関と十分打合せを行っていききたい。加えてヘルスマイトの皆さんの応援をいただくことを考えている。</p> <p>○会員の多くは地域周辺の自治会・社会福祉協議会に属する方が多いので、今後の博物館の活動に積極的に参加してもらう意味からも特に周辺自治会等関係機関に参加を呼びかける。</p> <p>○友の会の“グッズ販売”で関係のある、博物館の関連機関である「土器づくり同好会」とは、イボキサゴの利用についても連絡・打ち合わせを密に行っていききたい。今回の取り組みで行う各種コンペの賞品には、縄文まつりで大好評の“縄文土器”も対象に考えたい。</p> <p>○本事業の取り組みにおいて、取り組みー1で木更津市の金田漁業組合、取組ー2では加曾利自然観察会、坂月川愛好会との連携打合せを行う。</p>
区民への周知方法	<p>○本事業は加曾利博物館と協力して行う事業となるので、催事については博物館の広報活動にできるだけ相乗り掲載してもらうことをお願い</p>

	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まだ友の会の活動宣伝が十分ではないが、チャンスなので若葉区内の関連公民館すべてに広報案内を出す。加えて、千葉市内主要公共機関へのアプローチも考えたい。
<p>区民の皆さんに事業を知ってもらうため、或は事業に参加・協力してもらうために、どのような広報活動を行うか</p>	
<p>○まず、160名（若葉区民7割）在籍の友の会会員宛、本事業を行うことの紹介（ビラ作成）と取り組みー1,2をWG方式で行うので、どちらかのグループで活動することをお願いする内容とどちらかに参加の手を挙げていただくよう要請の手紙を発送する。</p> <p>会員でない方々には、友の会HP掲示は勿論、区内の公民館その他機関にその旨の掲示を行い応募を要請する。その他博物館・友の会開催事業の受付に関連ビラを置き関係のある方々に案内する。（友の会講演会開催でこの方法は成功している）</p>	
<p>応募する活動・事業の終了後に、地域がどのようなことを期待するか</p>	
<p>○まず第一義的に博物館行事参加者が増えることを期待したい。取り組みー1及び2の参加希望者数、雰囲気これを推定することもできる。また、若葉区の持てる財産、特に加曾利貝塚という遺跡国宝と大きな自然・遺跡・公園が満ち溢れていることをパンフを通じて理解してもらうことをPRすることが重要である。</p> <p>○周辺自治会の皆さんにできるだけ博物館行事に参加するよう呼びかけを積極的に行うために、こちらから出かけて行って説明を行うことも考えている。もっと身近に加曾利貝塚があることを理解してもらうことが重要である。</p>	
<p>今後の事業展開（今回の活動の成果をどのように発展させて行こうと考えているか）</p>	
<p>≪2年目の取り組み≫</p> <p>取り組みー1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イボキサゴ採取会の内容検討と決定 <ul style="list-style-type: none"> ○1年目の参加状況を見ながら、必要であれば「金田漁業組合」と打合せを行い、参加人数の総枠を決める、同時にその枠内での採取会の在り方を詳細決定する。 ○無料駐車場、並びに長浦駅から海岸入口までのバスによる輸送方法（有料）等も検討する。 2) イボキサゴの味を生かした料理方法の提案コンペの開催を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○縄文時代想定と現代風アレンジ各部門に分けた提案を考慮し、若葉区のヘルスマイトの皆さんと協働検討を行う。加えて、イボキサゴを使用した工芸品の試作展示会も検討する。 <p>取り組みー2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 加曾利貝塚周辺の若葉区ウォーキングマップの付帯資料の作製。 <ul style="list-style-type: none"> ○自然観察の関連資料、関係する遺跡関連の資料等を盛り込んだパンフの作成。 2) 歩こう会の定常化のための催しの実行。 <p>≪3年目の取り組み≫</p> <p>取り組みー1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イボキサゴ採取会については、2年目の結果を受け、修正の後、実行する。以降、採取会の定常化を図る。 2) スープの無料提供を行うほか、料理コンペの優秀作品に関し、作品の試作を行い、 	

縄文まつりの時に展示、試食会を行い、工芸品の試作展示会も行う。

取り組みー2

- 1) 縄文まつり等の催事行の一つとして組み入れる。
- 2) 自然観察、遺跡説明等に関し、友の会スタッフで対応するよう体制を組む。

尚、年3回の全体会議を通してスケジュール管理を詳細に行っていく。

○友の会としては、次の二つの事項が解決することを望んでいる。

- 1) 若葉区の持てる大きな財産の活用に関し、広く皆さんの考え、方向、希望等（どんなことに興味があるのか）について把握できるので、今後の博物館活動並びに友の会活動に大きく活かしていくことが出来る。
- 2) 友の会、特に執行体制の新陳代謝が行われることにより、若い力のある博物館支援体制で臨むことが出来ると共に会員数の増加が期待できること。

今後の資金調達方法（補助金交付が終了した後、どのような方法で活動を続けていくか）

○現在の会員数で友の会活動の主要事業（講演会・バス研修旅行開催、勉強会開催等）の収支はカバーされているが、今後、その内容の更なる充実を図る事、皆さんの興味のある新規テーマアップ等の事業化のためには資金がさらに必要となる。この必要分は会員の増加を図ることと、グッズ販売等でカバーしていくことを考えたい。